

学校教育目標			・すすんで学ぶ生徒 ・心の豊かな生徒 ・健康でたくましい生徒				目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像		＜学校像＞”生徒第一義の学校”・生徒一人一人の可能性を信じ、生徒の成長を第一とする学校・生徒自身の人生の基盤をつくることのできる学校・生徒が夢をもち、生徒の輝く笑顔がいつも見られる学校・生徒・保護者・地域から信頼される学校 ＜生徒像＞・自分以外の多様な人を受け入れ、優しく温かい生徒・思いやりの気持ちと豊かな心をもち、ルールを守る生徒・意欲的に学力向上に努力する生徒・積極的に体力向上に努力する生徒 ＜教師像＞・生徒の成長を第一とし、常に専門職としての資質・能力の向上に努める教職員・「師弟同行」を胸に刻み、胸を張って生徒指導に取り組める教職員・組織の一員として職責を十分理解し、互いに学び合い、高め合える教職員・前例踏襲にとらわれず、生徒第一義の教育活動を実践できる創造力豊かな教職員・生徒・保護者・地域の方・教職員に対しても優しく温かい対応ができる教職員																			
前年度までの本校の現状			成果				・人権尊重教育を基盤とした魅力ある教育活動の実践（SDGs、ユニバーサルデザイン） ・運動会、文化祭等規模を縮小せず、生徒・保護者のニーズに応えた学校行事の完全実施 ・授業改善の継続、補習・自習教室、家庭学習の推進等による基礎学力の定着の成果が微現 ・本校入学を選択する生徒数の増加（昨年度新入生は146人に、予想数より大幅増加。昨年度転入生約10人は安定して通学している）										課題		・家庭学習習慣の未定着への一層丁寧な対応による基礎学力向上 ・授業力向上により、応用発展学習の推進 ・不登校及び不登校傾向生徒、特別支援を要する生徒、外国籍生徒への個に応じた指導や支援の充実									
重点	取組項目		具体的な取組内容		数値目標		達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価(A～D)		「年度末」 学校関係者評価(A～D)		次年度に向けた改善案											
					9月	2月	評価	コメント		評価	コメント		評価	コメント		評価	コメント											
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に對しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実		・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善・・・目標の提示、学習活動の明確化（グループ活動の工夫）、振り返りの定着、ICT・タブレットの効果的活用 ・補習・自習教室の機会拡充、適切な課題提示、学習状況の把握と評価		・全国学力・学習状況調査の数値を上回る（昨年度、都平均より国語-7 数学-4、一昨年度より上昇） ・生徒・保護者アンケートの「学習指導・授業工夫」の項目、高評価93％以上（昨年度91％一昨年度76％）		C		C	・全国学力・学習状況調査では、今年度、都平均より国語-7→-3 ○ 数学-4→-5△、理科-0.6 △の結果であった。引き続き授業改善を推進する ・「基礎学力定着」高評価（保護者57％ 生徒75％）	B	・授業態度は落ち書いていて大変良い、学力を伸ばしてほしい																
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実		・宿泊行事・校外学習の事前事後学習で、探究学習成果物の完成・レベルアップ。 ・全校生徒へも呼びかけ、自主的な探究活動の増加。 ・よむよむワークシートの有効活用		・全生徒の読書科の探究活動成果物、完成 文化祭等で公開 ・「コンクール」の出品促進 ・生徒アンケートの「情報収集・発表力向上」の高評価90％以上（昨年度86％、一昨年度83％） ・学校公開等での作品展示の保護者高評価92％以上（昨年度90％）		B		B	・「情報収集・発表力向上」高評価（生徒89％） ・読書科・探究活動の成果物は制作中、文化祭、公開等で発表 ・各学年タブレットを使ったプレゼン発表は成果大 ・YOMU YOMUワークシートは好評	B	・文化祭・学校公開での生徒作品を楽しみにしている																
	＜英語力の向上＞		・英語授業において、会話を伸ばす取組の継続・推進		・生徒アンケート「英語」の授業意欲・学力向上90％以上 ・躊躇なく英語で会話できる環境の醸成		B		B	・授業導入時・学習活動に、スピーキングを多く取り入れている。生徒はグループ・ペア活動等意欲的である。 ・英語の授業意欲は高評価	B	・継続してほしい																
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞		・生活習慣改善の呼びかけと生活リズム・自己管理の定着 ・保健体育授業時の補強運動の継続 ・グストティーチャーや講演、掲示物により、スポーツに親しむ心の育成		・感冒・感染による学校・学年閉鎖なしの継続（昨年度学校閉鎖1回） ・体力テスト評価、区平均・都平均を上回る ・生徒・保護者アンケートの「基本的生活習慣」の項目高評価95％以上（昨年度93％） 「生活リズム」の項目高評価8％以上（昨年度73％）		A		A	・「生活習慣・体力向上」高評価（保護者82％ 生徒86％） ・運動会も全校でのダンス、団体種目等で参加意欲向上	A	・運動会はいへん良かった、今後もこの形を続けてほしい ・スマホ・ゲーム時間が多い ・地域の運動会・行事にも積極的に参加してほしい																
教育の推進 共生社会に向けた 実践にむけた	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副職交流、交流及び共同学習の実施・充実		・支援委員会で作成理解をベースに、具体的な支援策の共有 ・関係諸機関との緊密な連携（特にヤングケアラー、ネグレクト系） ・生徒、保護者のニーズに合わせた活用促進（オンライン授業、個別学習等）		・支援を要する生徒が、安心して通常の学校生活を送る（行動観察） ・生徒・保護者アンケートの「学校生活充実」の項目高評価95％以上（昨年度93％、一昨年度89％） ・保護者アンケートの「不登校、特別支援への指導」の項目高評価80％以上（昨年度62％）		A		A	・「学校生活充実」高評価（保護者93％ 生徒94％） ・「不登校、特別支援への指導」高評価（保護者83％ 生徒94％） ・支援委員会と適切な対応策を共有、関係諸機関とも連携を継続中。	A	・ヤングケアラー、ネグレクト等心配なことがあれば、民生児童委員に連絡してほしい 一児相等関係諸機関とも連携して対応している 最悪の状態は絶対に防ぐ手立てを行っている																
	＜防災教育の一層の推進＞		・万事に対応できる避難訓練の実施 ・地域と連携した地震・水害時避難場所としての体制確保		・災害時の迅速な避難所開設実施 ・教職員の防災対策意識向上（年度末調査で9割以上）		A		A	・備蓄倉庫の整備、水害・Jアラート等の避難訓練も実施	A	・地域防災訓練実施の際はすすんで協力する																
不登校・いじめ対応の充実	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校生徒への対応の充実		・欠席増加（連続3日を目安）による初期対応と適切な支援、関係機関との連携 ・ステップアップルーム、エンカレッジサポーターの有効活用 ・長期休業明けのケアを特に丁寧にしていく		・不登校生徒の減少（目標15以下、昨年度末30） ・どこにもつながらない生徒をゼロに（支援委員会です時確認）		B		B	・不登校生徒は18人、個々に適切に対応中。どこにもつながっていない生徒はゼロ。 ・SC SSW 関係諸機関とも円滑に連携 今後もより良い形を探る	B	・適切に対応しているので、安心している																
	・いじめ案件の対応（”迅速・丁寧・共有”を合言葉に初期に重点を置く） ・教育相談の強化 ・Hyper-QUの活用		・個別面談、SC面談等の情報共有 ・L-Gateによる日々の生徒の心身状態の把握と助言 ・HyperQUの分析による要支援・不満足群への支援		・いじめ案件を限りなくゼロに近づける ・L-Gateの生徒自身の有効活用度9割以上 ・HyperQUの要支援・不満足群の改善（昨年度は全クラスとも改善） ・保護者アンケートの「いじめ指導、問題行動解決」の項目高評価85％以上（昨年度79％）		B		B	・重大事態につながる件はなし、SNSトラブルは数件あったが、解決済み ・「いじめ指導、問題行動解決」高評価（保護者85％ 生徒95％） ・QUの結果を学年・担任が分析し対応中	A	・生徒の様子を見ると、落ち替えている ・SNSのトラブル等ははやめに対処してもらい、良かった																
学校（園）が地域社会に開かれた実現	＜自校（園）の取組の積極的な発信＞ ・学校（園）ホームページの充実等 ・学校（園）公開の実施・充実		・ほぼ毎日更新をめざし、適切な情報公開の実施 ・土曜授業・学校公開の年3回実施 ・保護者会等の欠席者への適切な情報提供		・保護者アンケートの「情報発信」の項目高評価96％以上（昨年度97％、一昨年度95％） ・学校公開時の保護者アンケート、高評価90％以上（昨年度85％）		A		A	・「情報発信」高評価（保護者96％） ・通知文等をtetoru発信に切り替え高評価 ・9月学校説明会に120人以上出席	A	・HPがリニューアルし、見やすくなった ・今後も生徒の活躍をHPで伝えてほしい																
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施		・学期ごとの生徒・保護者アンケートの実施 ・PTA役員会、学校評議員会による意見聴取		・生徒・保護者アンケートの「教育活動改善」の項目高評価90％以上（昨年度84％） ・本校への肯定的な意見、9割以上（昨年度、批判的な意見はほぼなし）		A		A	・「教員との信頼関係」高評価（保護者88％ 生徒94％） ・PTA 評議員会で肯定的な声が多い	A	・公開での保護者意見はほぼ高評価である ・評議員会時の授業見学でも、生徒の様子は良かった																
教育の展開 特色ある	＜令和3・4年度 人権尊重教育推進校の成果を継続発展＞		・共生社会の考えを基盤にした、差別や偏見のない環境づくり（校内環境整備、講演会、道徳授業等）		・生徒・保護者アンケートの「人権教育推進」の項目高評価90％以上（昨年度生徒88％ 保護者82％）		A		A	・「人権教育」高評価（保護者87％ 生徒95％） ・月ごとの人権重点目標で教員の意識も向上している ・人権意識を基幹とし、適切な言動を推進している	A	・継続してほしい																
	＜教員研修のさらなる工夫と実施＞		・OJTグループと研修グループを融合し、教員同士の力量の向上 ・個別テーマの研修の充実		・年度末の面接、校内研修で成果を報告、教員自己高評価8割以上、持続可能な研修への更なる助言		B		B	・全教員を4つのグループに分けOJTを逐次実施、若手教員からの好意見多数 ・各教員自身のテーマで外部研修進捗中	B	・今後、研修の成果を共有し、学校全体の指導力アップにつなげてほしい																
	＜働き方改革の一層の推進＞		・定時退勤日の告知・呼びかけ ・部活動時間の改定（昨年度より年間通じ18時最終下校）→生徒生活リズムの安定		・時間外80h 越え産業医面談を年間を通じゼロに（昨年度2人、一昨年度のべ5人） ・ストレスチェックの数値をより一層低く（2年間区内上位）		B		B	・80h以上は昨年よりも確実に減少、今後も減少させる ・ストレスチェックは区内上位で、働きがい◎同僚・管理職からの支援◎の結果	B	・教員の仕事はハードなので、管理職が意識して、心身のリフレッシュをはらせてほしい																